令和6年度　　年間指導計画

34 延岡青朋高等学校 （ 通信制課程 ）

科目名	公共			学期	前期	
最低面接時数	2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数 2 単位

履修できる条件	開講する場所				
新入学生は、後期から履修可能 在校生は前、後期一方のみ履修可能	本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）

評価計画

添削指導	3 割	各回	1.新しい再提出基準（60点未満は不合格，教科担任裁量による合否等）に従って添削し，合格した場合評価を「2」とする。 2.<警告>①提出期限に遅れた場合，1回だけは80点以上あれば評価をすべて「2」とする。80点未満の場合、再提出させ合格にすること　もある。②30点未満の場合、再提出で合格すれば評価を「2」とする。 3.有効期限に遅れたり、「警告」2度目のレポートは無効とし，単位修得を認めない。
		全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。
面接指導		各回	最低面接時数を満たすことを単位修得の条件とするのみで，評価の対象としない。それは，面接指導者が固定されておらず，しかも1回限り（2時限）の面接で公平かつ十分な評価が困難なためである。
		全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。
テスト	7 割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。
		試問実技	実施しない。

1.目標

よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2.教科の概要（選択の際のアドバイス）

私たちが生きている現代社会は，どのような特徴をもち，どんな問題を抱えているのかを知り，それをどのように解決していくのか，どのような社会を作っていくのかを考えていく科目です。政治・経済や国際関係を中心に学習しながら，人権・共生，反戦・平和，環境問題など直面する課題についてよく知ることから始めます。そして，グローバル化した社会を生きる人間として，どう行動し生きていくのか考えていきましょう。

3.使用教科書等

教　材	記号・番号	書　　名	発行者番号・発行者名
教科書	公共701	公共	2東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4.添削指導計画　※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指　導　内　容		備　考
1	4/30	公共的な空間をつくる私たち 公共的な空間における人間としての在り方生き方	現代社会に生きる青年 社会的な関係のなかで生きる人間	功利主義と幸福の原理 義務論と公正の原理	
2	5/14	公共的な空間における基本的原理 民主政治と私たち	公共的な空間における協働とは 民主主義とは、立憲主義とは、人権保障の意義と展開	民主政治と政治参加	
3	5/28	法の働きと私たち	法や規範の意義と役割 市民生活と私法	国民の司法参加	
4	6/11	経済活動で生きる私たち	現代の経済と市場 市場経済における金融の働き	財政の役割と持続可能な社会保障制度	
5	6/25	私たちの職業生活 国際社会のなかで生きる私たち①	働くことの意義と職業選択 労働者の権利と雇用・労働問題	国際社会のルールとしくみ 国際社会と平和主義	
6	7/9	国際社会のなかで生きる私たち②	国際平和への課題	グローバル化する国際経済	

5.観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣　旨	現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

令和6年度　　　　年間指導計画　　　　34 延岡青朋高等学校 （ 通信制課程 ）

科目名	政治・経済			学期	前期		
最低面接時数	2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件	・公共（現代社会）を修得した者			開講する場所			
				本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）

評価計画				
添削指導	3 割	各回	1．新しい再提出基準（60点未満は不合格，教科担任裁量による合否等）に従って添削し，合格した場合評価を「2」とする。 2．＜警告＞①提出期限に遅れた場合，1回だけは80点以上あれば評価をすべて「2」とする。80点未満の場合、再提出させ合格にすることもある。②30点未満の場合、再提出で合格すれば評価を「2」とする。 3．有効期限に遅れたり、「警告」2度目のレポートは無効とし，単位修得を認めない。
		全体	1．レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。
面接指導		各回	最低面接時数を満たすことを単位修得の条件とするのみで，評価の対象としない。それは，面接指導者が固定されておらず，しかも1回限り（2時限）の面接で公平かつ十分な評価が困難なためである。
		全体	1．最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。
テスト	7 割	定期	1．30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2．再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。
		試問実技	実施しない。

1．目標

広い視野に立って，民主主義や資本主義等の本質に関する理解を深めさせ，現代における政治，経済，国際関係などについて理解させる。また，それらに関する諸問題について主体的に考えさせ，公正な判断力を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2．教科の概要（選択の際のアドバイス）

政治・経済は、公共の上位科目です。政治，経済，国際関係の動向を公共よりも細かく詳しく学び、客観的なものの見方や考え方を深め、諸課題について主体的に多様な角度から考えていきます。政治・経済のあり方は私たちの生活を直撃します。困難な時代にあって，人間らしい生活をともに実現していくにはどうするのか，そのために現実のしくみをよく知ることよく考えることをしていきましょう。

3．使用教科書等

教　材	記号・番号	書　　名	発行者番号・発行者名
教科書	政経701	政治・経済	2 東京書籍
教科書			
学習書			
その他	資料集	新版 最新 政治・経済資料集2023	第一学習社

4．添削指導計画　※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容		備考
1	4/30	現代の政治	民主政治の基本原理	日本国憲法の基本原理	
2	5/14	現代の政治	日本の政治機構	現代政治の特質と課題	
3	5/28	現代の国際政治	国際政治の仕組み	複雑化する国際政治と日本	
4	6/11	現代の経済	現代の資本主義経済	現代経済のしくみ	
5	6/25	現代の経済	現代経済のしくみ 日本経済の発展と現状	福祉社会と日本経済の課題 現代日本の諸課題	
6	7/9	現代の国際経済	国民経済と国際経済 世界経済の現状と課題	国際社会の諸課題	

5．観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣　旨	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに，諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	有意な社会の形成者として、政治・経済に関する知識・理論を活用し，諸課題を的確に把握し、改善するための合意形成や社会参画に向けて，現状を把握し、課題解決に向けた取り組みの妥当性や効果，実現可能性などを指標に考察し、公正に判断，表現している。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

令和6年度　　年間指導計画

34 延岡青朋高等学校（ 通信制課程 ）

科目名	数学入門			学期	前期		
最低面接時数	2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位

履修できる条件	開講する場所				
「数学Ⅰ」が未修得（2単位以下）	高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋農業	本校（月曜）

評価計画				
評価計画	添削指導	3割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。
	面接指導	0割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。
	テスト	7割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。
			試問実技	

1. 目標

分数・正の数負の数・文字式の計算、乗法公式、因数分解、方程式、平方根について、基礎的な知識の習得と技能の習熟をはかり、それらを的確に活用する能力を伸ばし、数学Ⅰを学習するための準備とする。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

高校の数学を学ぶ上で必要な基本的な計算や法則を基礎から学習します。中学3年生までの計算を中心とした復習をしながら基礎力をつけ、高校数学に備えます。分数・正の数負の数・文字式の計算、乗法公式、因数分解、方程式、平方根などについて復習します。

3. 使用教科書等

教　材	記号・番号	書　　名	発行者番号・発行者名
教科書		数学Ⅰ入門	NHK出版
教科書			
学習書			
その他			

4. 添削指導計画　※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指　導　内　容	備　考
1	5/7	整数と分数	整数の計算、整数の性質、分数の性質、分数と小数、分数の四則計算	
2	5/21	正の数・負の数と文字式	正の数・負の数の四則計算、文字式のきまり、文字式の値	
3	6/4	式の計算	整式の加法と減法、指数法則、整式の乗法と除法	
4	6/18	乗法公式・因数分解	乗法公式、因数分解	
5	7/2	1次方程式	1次方程式の解き方、1次方程式の応用、連立2元1次方程式	
6	7/16	平方根・2次方程式	根号を含む式の計算、2次方程式の解き方	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣　旨	整数と分数、文字式、式の計算、展開・因数分解、平方根、1次方程式、2次方程式の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	数や式を基本的な部分を理解し、目的に応じ適切に変形する力、展開や因数分解。平方根などの内容について考察する力を養う。数学Ⅰで学ぶための布石として、基本的な部分について、思考・判断・表現ができるようにする力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

令和6年度　　　年間指導計画

34 延岡青朋高等学校 （ 通信制課程 ）

科目名	数学Ⅰ			学期	前期		
最低面接時数	2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件	なし			開講する場所			
				高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋農業 / 本校（月曜）

評価計画		割合		内容
評価計画	添削指導	3割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。
	面接指導	0割	各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。
	テスト	7割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。
			試問実技	

1.目標

方程式と不等式、2次関数について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

2.教科の概要（選択の際のアドバイス）

高校数学で基礎となる内容を学習します。数と式では、中学校で学習した式の計算や方程式の解法を、公式を利用するなどしてさらに発展させたことを学習します。2次関数では、グラフの平行移動について理解し、2次関数のグラフについて学習します。また、関数の値の変化をとらえ、応用として2次不等式に活用します。三角比では、三角形の辺と角の関係やサイン・コサイン・タンジェントについて理解し、公式を用いて三角形の辺・角・面積の値を求めることを学習します。集合と論証では、集合と命題について理解し、命題の真偽について学習します。データの分析では、データの分析について理解し、データの整理やデータの表し方について学習します。数学の必履修科目のため必ず修得する必要があります。

3.教科書等

教　材	記号・番号	書　名	発行者番号・発行者名
教科書	数Ⅰ319	新 数学Ⅰ	2 東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4.添削指導計画　※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指　導　内　容	備　考
1	5/7	数と式(1)	プレリュード(数の計算)	
2	5/21	数と式(2)	整式(整式の加法・減法・乗法)	
3	6/4	数と式(3)	整式(因数分解)，実数(根号を含む計算)	
4	6/18	数と式(4)	方程式・不等式(1次方程式・1次不等式・2次方程式)	
5	7/2	2次関数(1)	2次関数とそのグラフ(1次関数・2次関数のグラフ・2次関数のグラフの平行移動)	
6	7/16	2次関数(2)	2次関数の値の変化(2次関数の最大値と最小値・2次関数のグラフと2次方程式・2次関数のグラフと2次不等式)	

5.観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣　旨	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じ適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数について表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、データの散らばりや変量の関係に着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

令和6年度　　　年間指導計画

34 延岡青朋高等学校（ 通信制課程 ）

科目名	数学Ⅰ応用			学期	前期		
最低面接時数	2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2単位（数学Ⅰの増加単位）
履修できる条件	「数学Ⅰ」修得済み			開講する場所			
				高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋農業	本校（月曜）

評価計画		割合		内容
評価計画	添削指導	3割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。
	面接指導	0割	各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。
	テスト	7割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。
			試問実技	

1.目標

数学Ⅰの内容をさらに深め、知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。また、進学を希望している生徒の入学試験に対応できる学力の定着を図る。

2.教科の概要（選択の際のアドバイス）

数学Ⅰの内容をさらに深く学習し、進学に必要な入試基礎レベルの問題を演習します。数と式では、入試レベルの展開や因数分解を学習します。また、絶対値や循環小数も学習します。2次関数では、2次関数の決定や2次関数の平行移動について学習します。また、2次関数と直線の関係についても学習します。三角比では、三角比を含む方程式について学習します。また、円に内接する四角形の性質も学習します。データの分析では、標準偏差を用いて散らばりぐあいを比較する学習をします。

3.教科書等

教　材	記号・番号	書　　名	発行者番号・発行者名
教科書	数Ⅰ319	新 数学Ⅰ	2 東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4.添削指導計画　※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指　導　内　容	備　考
1	5/7	数と式(1)	プレリュード（数の計算）	
2	5/21	数と式(2)	整式（整式の加法・減法・乗法）	
3	6/4	数と式(3)	整式（因数分解），実数（根号を含む計算）	
4	6/18	数と式(4)	方程式・不等式（1次方程式・1次不等式・2次方程式）	
5	7/2	2次関数(1)	2次関数とそのグラフ（1次関数・2次関数のグラフ・2次関数のグラフの平行移動）	
6	7/16	2次関数(2)	2次関数の値の変化（2次関数の最大値と最小値・2次関数のグラフと2次方程式・2次関数のグラフと2次不等式）	

5.観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣　旨	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じ適切に変形する力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数について表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、データの散らばりや変量の関係に着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断できる力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

令和6年度　　　年間指導計画

34 延岡青朋高等学校（ 通信制課程 ）

科目名	数学A			学期	前期		
最低面接時数	2 時間	レポート数	6 回	テスト	有	単位数	2 単位
履修できる条件	「数学Ⅰ」と並行あるいは修得済			開講する場所			
				高千穂	本校（日曜）	富島	高鍋農業	本校（月曜）

評価計画				
評価計画	添削指導	3割	各回	1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。 2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。
	面接指導	0割	各回	1.出席時数の多寡で評価は行わない。
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。
	テスト	7割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。
			試問実技	

1.目標

場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てるとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

2.教科の概要（選択の際のアドバイス）

数学Ⅰの内容と関係性をもちながらも新たな内容を学習します。場合の数と確率では、場合の数や確率をもとめるときの考え方を理解し、さまざまな状況での場合の数や確率の求め方を学習します。文字式の計算はあまりなく、数の計算が主になります。図形の性質では、三角形や円の性質を学習します。また、基本的な作図や多面体の性質についても学習します。整数の性質では、最大公約数と最小公倍数について学習します。進学を考えている人は選択することを薦めます。

3.使用教科書等

教　材	記号・番号	書　　名	発行者番号・発行者名
教科書	数A 319	新 数学A	2 東京書籍
教科書			
学習書			
その他			

4.添削指導計画　※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指　導　内　容	備　考
1	5/7	場合の数(1)	集合、集合の要素の個数、和の法則と積の法則、順列	
2	5/21	場合の数(2) 確率(1)	順列、順列の利用、重複順列、円順列、組合せ、組合せの利用、確率の意味	
3	6/4	確率(2)	確率の計算、独立な試行の確率	
4	6/18	確率(3) 三角形の性質(1)	反復試行の確率、条件つき確率、三角形と比、三角形の重心・外心・内心	
5	7/2	三角形の性質(2) 円の性質	角の二等分線と線分の比、円周角の定理、円に内接する四角形、円と直線、接線と弦のつくる角、方べきの定理	
6	7/16	作図 約数と倍数	基本の作図、多面体、約数と倍数、最大公約数と最小公倍数	

5.観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣　旨	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、論理的に考察する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

令和6年度　　　年間指導計画

34 延岡青朋高等学校 （ 通信制課程 ）

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="3">数学Ⅱ</td><td>学期</td><td colspan="4">前期</td></tr>
<tr><td>最低面接時数</td><td>2 時間</td><td>レポート数</td><td>6 回</td><td>テスト</td><td>有</td><td>単位数</td><td colspan="2">2 単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">履修できる条件</td><td colspan="3" rowspan="2">「数学Ⅰ」を修得済</td><td colspan="5">開講する場所</td></tr>
<tr><td>高千穂</td><td>本校（日曜）</td><td>富島</td><td>高鍋農業</td><td>本校（月曜）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="6">評価計画</td><td rowspan="2">添削指導</td><td rowspan="2">3割</td><td>各回</td><td>1.意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多いレポートは、再提出させ評価を2とする。
2.提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2とした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。
3.有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。</td></tr>
<tr><td>全体</td><td>1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の3割とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">面接指導</td><td rowspan="2">0割</td><td>各回</td><td>1.出席時数の多寡で評価は行わない。</td></tr>
<tr><td>全体</td><td>1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">テスト</td><td rowspan="2">7割</td><td>定期</td><td>1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。
2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。</td></tr>
<tr><td>試問実技</td><td></td></tr>
</table>

1.目標

方程式・式と証明、図形と方程式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2.教科の概要（選択の際のアドバイス）

数学Ⅰの内容を発展・拡充させ、広い数学的な資質・能力の育成を目指します。方程式では、数の範囲を複素数まで拡張する必要性と意味を理解し、複素数の計算を習熟します。また、整式の除法、剰余の定理、因数定理について学び、3次方程式以上の解法に活用していきます。図形と方程式では、直線と円の基本的な平面図形の性質や関係を調べ、2直線の関係、円と直線の位置関係などを調べます。三角関数では、角の概念を一般角まで拡張し、三角関数の性質や相互関係、グラフやその周期性について理解を深めます。指数関数では、指数を正の整数から有理数まで拡張します。また、指数関数のグラフを書き、関数値の増減の様子などを調べます。対数関数では対数の意味について理解し、対数の計算を習熟します。また、常用対数を用いて、整数の桁数を求めます。微分法では、極限の考え方を理解し、微分係数を接線の傾きとして捕らえることで接線の方程式を求めます。また、関数値の増減の様子などを調べます。定積分では、その計算を習熟し、さらに曲線で囲まれた部分の面積を定積分を利用して求めます。

3.使用教科書等

教　材	記号・番号	書　　名	発行者番号・発行者名
教科書	数Ⅱ・719	新 高校の数学Ⅱ	104 数研
教科書			
学習書			
その他			

4.添削指導計画　※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指　導　内　容	備　考
1	5/7	方程式・式と証明(1)	集合、集合の要素の個数、和の法則と積の法則、順列	
2	5/21	方程式・式と証明(2)	順列、順列の利用、重複順列、円順列、組合せ、組合せの利用、確率の意味	
3	6/4	方程式・式と証明(3)	確率の計算、独立な試行の確率	
4	6/18	方程式・式と証明(4) 図形と方程式(1)	反復試行の確率、条件つき確率、三角形と比、三角形の重心・外心・内心	
5	7/2	図形と方程式(2)	角の二等分線と線分の比、円周角の定理、円に内接する四角形、円と直線、接線と弦のつくる角、方べきの定理	
6	7/16	図形と方程式(3)	基本の作図、多面体、約数と倍数、最大公約数と最小公倍数	

5.観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣　旨	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

令和6年度　　　年間指導計画

34 延岡青朋高等学校 （ 通信制課程 ）

科目名	科学と人間生活			学期	前期		
最低面接時数	８ 時間	レポート数	６ 回	テスト	有	単位数	２ 単位
履修できる条件	特になし			開講する場所			
				本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋	本校（月曜）

評価計画		割合		
評価計画	添削指導	5割	各回	1.指示無視・大問無解答・他人の筆跡・他人の書写や被書写は、「再提出」。 2.60～79点でも、学習状況・取り組み・理解度により「再提出」。 3.60点未満は「不合格+再提出」。 4.30点未満は「警告+再提出」。 5.提出期限遅れは、「80点以上+警告+評価2」。（2回目以降は「失格」となり、単位を認めない。） 6.再提出は、80点以上必要。7.有効期限遅れは、「失格」。（単位を認めない。）
			全体	1.レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。
	面接指導		各回	1：出席時数の多寡で評価は行わない。 2：指導中の意欲等を評価に含めない。
			全体	1.最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。
	テスト	5割	定期	1.30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2.再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。
			試問実技	1：特に実施しない。

1.目標

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2.教科の概要（選択の際のアドバイス）

理科の科目の中では比較的計算問題は少ない科目です。学習内容は、科学の歴史、科学技術の発展やその利用、生命についての科学や地球や宇宙についての科学を扱います。

3.使用教科書等

教　材	記号・番号	書　　　名	発行者番号・発行者名
教科書	科人 705	高等学校 科学と人間生活	183 第一学習社
教科書			
学習書	なし		
その他	なし		

4.添削指導計画　※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指　導　内　容		備　考
1	5/7	科学技術の発展	・情報伝達技術の発展 ・エネルギー資源の活用と交通手段の発展 ・医療技術の発展	・医療技術の発展	
2	5/21	物質の科学（材料とその利用）	・プラスチックの特徴 ・プラスチックの分類と用途 ・さまざまなプラスチック	・金属と人間生活 ・金属のさびと合金 ・繊維	
3	6/4	物質の科学（衣料と食品） 生命の科学（ヒトの生命現象）	・身近な繊維 ・天然繊維 ・化学繊維	・遺伝子とDNA ・タンパク質の合成	
4	6/18	生命の科学（ヒトの生命現象） 生命の科学（微生物とその利用）	・ヒトの視覚 ・微生物の利用	・温度と熱運動 ・熱容量と比熱	
5	7/2	熱や光の科学	・仕事や電流と熱の発生 ・エネルギーの移り変わり	・光の発生と速さ ・電磁波の種類とその利用 ・電磁波の種類と性質、利用	
6	7/16	地球や宇宙の科学	・日本列島のなりたち ・火山活動と地表の変化 ・火山活動と防災	・地震災害と防災 ・気象災害と防災 ・太陽と太陽系	

5.観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣　旨	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察，実験などを行い，人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		